

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 福岡県 】

学校名【 福岡県立三潴高等学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	福岡県立三潴高等学校普通科スポーツ文化コース 1、2学年(108名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (体育(専攻実技)) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	オリンピックによる「走・跳・投」の実技指導を通して、スポーツ文化コース1、2年生の走・跳・投に対する技術指導はもちろんのこと、オリンピックの教育的価値(努力の喜び、フェアプレイ、バランスのとれた身徳知)を生徒たちが実感し、2020年東京オリンピック後の、「スポーツ志向」や今後の生活に生かせるようにする。
5 取組内容	<p>オリンピックによる実技指導を行った。</p>   <p>(1) 講師による走りのポイントの指導の様子。</p>

(実施内容の続き)



(2) 跳躍時の接地トレーニングの様子。



(3) 投擲に必要な体の使い方をポイント解説の様子。

6 主な成果

○陸上競技の種目には関わりが薄いですが、トレーニングの考え方が勉強になり自分の競技に置き換えて考える事ができた。(水泳部)

○2020年の東京オリンピック後に今年まで現役でもある講師を踏まえ一緒にトレーニングをすることで「スポーツの志向」や普段の学校生活など気持ちを高める事ができた。

7 実践において工夫した点(事業の特色)

○事前に講師本人が出演した、オリンピック大会の紹介文を配布することでトップアスリートである実感をもたせる。

○トレーニングについて考えることと体の各部位を動かすことが連動しなくてはいけない事を説明をすることでトレーニングに臨むイメージをつかむ。

○実際に体で体験することで頭と体のつながりを理解する。

○最後に自分の興味分野の「走」「跳」「投」の中に取り入れ、より良いパフォーマンスに繋げていく。

○講師とともにトレーニングすることで生徒たちに自信や勇気を与えさせる。

8 主な課題等	○今回のオリンピック・パラリンピック教育は我々教師が行うよりも、生徒への刺激が大変大きいと改めて感じる事ができた。その効果は予想以上であった。この事業が今年度までで終わらず、来年度も継続してこの教育を行える事を切に願う。
9 来年度以降の実施予定	○毎年のオリンピック・パラリンピック教育は生徒に大きな刺激を与えている。本校ではスポーツ文化コースも設置しておりオリンピック教育は切り離せないものである。引き続き継続し本事業が来年度以降どう展開していくかはわからないが、本校としても継続して取り組んで行きたい。



	
<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「走」に対する興味、関心の向上、楽しむ心を持つことができ生徒同士の声掛けなども自然と起き始めた。 ○陸上部の生徒はインプットしたことをアウトプットすることにより深く理解することができた。 ○今回のオリンピック考案「走」トレーニング法を実践し、多くの生徒がスポーツに対する興味・関心やスポーツを楽しむ心を持つことができた。今年で4回目となり昨年度より生徒たちは積極性が増し、オリンピックに対する意識や普及啓発につながっていることが実感できた。その理由の一つとして普段の生活や部活動の中で「走」に対する疑問や質問、トレーニング方法の在り方など生徒たちの言葉の中から多く耳にするようになった。
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「走り」では密集を避けるため、3グループに分けスタート地点も3ヶ所にした。自分の走りに応じた課題を考えやすくすることで、より興味、関心を持たせた。 ○トレーニング後、自分のパフォーマンスにどうつながるか考えさせ、今後の部活動に取り入れやすく整理した。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○今回「走」のトレーニングを実践し、「教える側」と「学ぶ側」の生徒それぞれに個人差が大きく見られた。より良くするためには、この一度で終わらず、このような取り組みを継続して行っていくことで、今以上に理解し自分の知識、技能として習得していくと考える。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>今年度は東京オリンピックが行われ、その後の教育が大切だと考える。来年度もこのような事業が継続されていくとさらに生徒や職員・地域の中で東京オリンピック後であっても「オリンピック」普及啓発が継続されると考える。</p>